

「自立」「共生」「貢献」

福生市立福生第一中学校

福生市熊川 8 4 5

電 話 042 (551) 0321

FAX 042 (530) 7447



一中だより

9月号

令和8年8月27日



福生一中ホームページ NEW→ <https://fussa-1j.hs.fussa.school/>

学校の日々の様子をブログにて紹介しています。

将来や夢に向かい、目的をもって『磨き続けよう』

統括校長 金子 敏治



今夏、熊本県や千葉県をはじめ日本各地で自然災害が発生しました。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を願っております。

今日から2学期が始まりました。始業式に生徒たちが笑顔で元気にスタートできるようにとの思いから、「スマイル・スタート・コンサート」をCS委員会共催のもと、開催いたしました。4人のアーティストに音楽科教員も加わり、素晴らしい演奏をしていただくとともに、音楽の道を志した理由、仕事のやりがいや苦勞、最後に中学生へのメッセージを語っていただきました。

さて、話は変わりますが、第108回目となる夏の甲子園では、5名の女性審判員が初めて起用されたことが話題となりました。その中には、中学校で教員をし、二人のお子さんを育てながら審判をされている方もいました。子どもを連れて審判講習会に参加し、地方大会で一つ一つ経験を重ね、夢だった甲子園での審判を実現されたそうです。当日は、絶対に失敗してはいけないというプレッシャーを感じながらも、ボールから目を離さないという基本を忘れないよう声を出して自分に言い聞かせたようです。そして、無事に試合を終えた後は、「甲子園での審判は怖いけれど、終わってみると、また、立ちたいなと思える所です」と印象に残る言葉を話されています。この姿から、私たちも夢や希望をもち続け、困難なことにも諦めずに、今できることを一つずつ積み重ねることの大切さを学ぶことができます。

本校では、自分自身の将来と学校での学びをつなげるキャリア教育を大事にしています。2学期も将来や進路について考える多くの機会があります。1学年の職業講話、2学年の職場体験学習、3学年の修学旅行は、様々な職種の働く人々に会い、直接お話を聞いたり、体験したりできる貴重な機会です。これらの行事に受け身で参加するのではなく、職業を選んだ理由や、仕事のやりがい、大切にしていることなど、事前に課題意識や目的をもって主体的に活動に取り組んでほしいと思います。さらに、お世話になった方々への感謝の気持ちを表すとともに、自分たちが何かできることはないかを考え、行動に移すことができれば大変素晴らしいです。これらは、教育目標の重点である「貢献」にもつながります。2学期は、一年間で一番長い学期、言い換えれば、一人一人が大きく成長できる学期です。「なりたい自分」を模索しながら、一日一日を、目的をもって自分自身を磨いていくことを期待します。